

PRESS RELEASE

同時発表：国土交通記者会
国土交通省建設専門紙記者会
長崎市政記者クラブ

長崎市を代表する史跡「旧グラバー住宅」「大浦天主堂」エリア 国選定重要伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物 土地・建物の売買契約締結について

歴史的価値ある建造物の保存を通じた
インターナショナルラグジュアリーホテル開業を目指す



森トラスト株式会社（本社：東京都港区 社長：伊達 美和子）は、2017年7月21日付で、長崎県長崎市南山手町の土地・建物（通称：マリア園 以下、本物件）取得に係る売買契約を締結しましたので、お知らせいたします。今後、歴史的価値のある建造物の保存・活用を通じた、インターナショナルラグジュアリーホテルの開業を目指し、森トラストとして初の九州での事業展開を推進してまいります。

本物件は、長崎港を臨む高台に位置し、幕末・明治期に外国人居留地として諸外国の領事館や住宅が軒を並べた異国情緒溢れる南山手地区の南端に位置しています。1898年に建設された建物は、近隣の重要文化財「旧グラバー住宅」、国宝「大浦天主堂」などととも、国選定重要伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物に特定されています。

長崎市内でも希少な赤煉瓦造りの建物にはロマネスク様式の装飾が施され、アーチ型の窓や白い鎧戸、高さ約10mのこうもり天井とステンドグラスに囲まれた聖堂など、明治時代に来日したフランス人修道士セネツの設計による、その美しい建築様式は南山手地区を代表する建物の一つとなっています。

建設当初は、「ショファイユの幼きイエズス修道会」の日本管区本部修道院や、カトリック系女学校などとして使用され、また「大浦天主堂」建立に貢献したプティジャン司教ゆかりの修道院として、長崎におけるキリスト教の歴史において重要な役割を担ってきたことでも知られています。

長崎市は、2015年にユネスコの世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」に続き、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」が新たに登録を目指すなど、豊かな観光資源に恵まれており、伝統的建造物の保存も積極的に進めています。また近年は、長崎港への大型クルーズ客船の入港が活発化するなど、国内外からの観光客数や観光消費額が過去最高を記録し、さらに九州新幹線の長崎駅までの延伸（2022年暫定開業）も予定されるなど、さらなる発展が期待されていることから、ラグジュアリーホテルの誘致も求められています。

森トラストグループは、ホテル&リゾート事業において、日本各地の魅力あふれる都市やリゾート地におけるラグジュアリーホテル開発を通じ、日本に「ラグジュアリー・ディステイネーション・ネットワーク」を創造し、日本の観光先進国化、地方創生に貢献することを事業ビジョンとして掲げています。

なかでも、歴史的資源や文化財等の保存・活用を通じた、インターナショナルラグジュアリーホテルの開業を積極的に推進しており、本物件においても、長崎市が誇る歴史的価値ある建造物を次世代へ継承したラグジュアリーホテルの整備を実現し、広く世界にその魅力を発信することを目指してまいります。

本物件概要

所在地：長崎県長崎市南山手町 12-17

敷地面積：4,826.00 m²

延床面積：3,266.32 m²

築年：1898年

階数：地上3階、地下1階



周辺地図

ラグジュアリー・ディステイネーション・ネットワークの創造に向けた歴史的建造物を活用した森トラストグループの取り組み

■奈良「吉城園^{よしきえん}周辺地区保存管理・活用事業」

本事業は、奈良県が主導する官民連携事業であり、当社は2017年3月に本事業における優先交渉権者として選定されました。名勝地「奈良公園」内に位置し、春日大社や興福寺・東大寺などの世界遺産に囲まれた希少な立地において、世界的な建築家である隈研吾氏の協力のもと、歴史的建造物や緑豊かな周辺エリアとの融合を図りながら再構築を行い、最高級インターナショナルホテルを中心とした施設開業を目指しています。



全体鳥瞰図（イメージ）



客室（イメージ）

■箱根・強羅「強羅環翠楼^{かんすいろう}」

1921年に建てられた旧三菱財閥岩崎家別荘を継承し、1949年に開業した高級老舗旅館で、1955年に昭和天皇・皇后両陛下がご宿泊された「錦華亭」など14の客室からなります。当面は「強羅環翠楼」として運営を継続し、将来的には歴史を重ねた建築物や庭園の最適化を通じ、本旅館の魅力を最大限に活かした、世界の富裕層が求める高級宿泊施設への再生を検討してまいります。



離れ「錦華亭」



客室「春秋亭 桜の間」

■熱海・来宮「山種寮^{きのみや}」

熱海湾を臨む閑静な高台に立地する築80年以上の木造建築や、四季の移ろいを告げる和風庭園、湯量豊富な自家源泉を備えた約8,400㎡の敷地において、由緒ある土地の歴史を活かし、エリア初となる外資系ラグジュアリーホテルの開業を目指し、開発計画を進めてまいります。



建物外観



山門

※計画は現時点のもので、今後変更となる場合があります。